

芦別・羽幌・富良野と

遠軽の両チームV

南は札山の手

ラグビー

道高校南・北選手権28

日・札幌月寒(ラグビー場)

最終日は南北それぞれの

決勝を行った。北大会は遠

軽と芦別・羽幌・富良野の

合同チームが17-17の同点

で両チーム優勝。大会規定

により抽選で遠軽が代表校

に決まった。遠軽は2年連

続12度目の優勝。芦別・羽

幌・富良野は合同チームと

して、南北大会通じて初の

頂点に立った。抽選による

代表校決定は、1989年

の南大会で函根北と芦別が

同点で両校優勝となり函根

北が代表校となつて以来、

35年ぶり。南大会は札山の

手が33-7で函ラサールを

下し、2年連続22度目の優

勝を果たした。

(3面)ひと2024・南

北代表主将の横顔)

遠軽と札山の手は12月27

日に開幕する全国大会(大

阪・花園ラグビー場)に出

場する。

【南大会】▽決勝

札山の手 33(21|12)7 函ラサー

ル

【北大会】▽決勝

遠 軽 17(12|5)17 芦別・羽

幌・富良

野

【遠軽】芦別・羽幌・富良野」
前半、1本目のトライを決め
た遠軽の清水(島中直樹撮影)



花園切符は抽選で遠軽

シーソーゲームの熱戦

は、同点で幕を下ろした。抽

選で全国切符を手にした遠

軽主将のCTB石崎は「両

チームとも全力を出し切っ

て戦えた」と胸を張った。

遠軽は前半13分にフッカ

ー清水が先制トライ。続く

20分、28分に相手の連続ト

ライで逆転を許したが、「チ

ームに焦りはなかった(清

水)。

後半開始直後にモールを

押し込み、プロップ上村の

トライで2点差に迫る。同

7分には「相手の守りが堅

かった。チャンスは(こし

かないかもしれない」と、

モールで相手を崩してから

パスを受けたロック市川

が、一時逆転となるトライ

を決めた。

夏からモール強化に取り

組んできたFW陣が結果を

出した。石崎監督は「FW

は攻撃で強みを出してくれ

た。だが、守備の部分でう

まういかなかった部分もあ

った」と課題を挙げる。清

水も「フィジカルがまだ足

りないと感じた。ウエート

で、あと5、6キ増やした

い」。昨年は初戦敗退した

全国を見据える。

35年ぶりの抽選での花園

出場。石崎主将は「芦別・

羽幌・富良野の思いも背負

つて、全国で勝利をつかみ

取りたい」と誓った。

(安沢悠太)

▼合同チーム初Vに監督
「誇り」芦別・羽幌・富
良野が、合同チームとして
道内で初めて優勝旗を手に
した。花園出場はかなわな
かったが、副監督は「優勝
したことを誇りに思っただ
け」と選手たちをたたえ
た。

12-17の後半14分、WT

B橋詰(芦別)が敵陣深く

まで持ち込んだボールを受

け、フランカー吉田(芦別)

が同点トライを決めた。応

援にきた芦別OBの日本代

表、小山大輝(埼玉)は「日

本代表でも、普段一緒に練

習しないとチームワークを

発揮するのに時間がかか

る。合同チームとして、短

い時間でここまで連係でき

るのは本当にすごい」と感

嘆した。

5月に始動した合同チー

ムはこの日で一区切り。決

勝で2トライの吉田は「少

し寂しいですね」とつぶや

き、遠軽に「北海道の代

表として花園で暴れてきて

ほしい」とエールを送った。

(安沢悠太)